

耕 進

耕
進

和田
耕作

生誕九十九年記念写真集

和田耕作

和田 耕作

生誕九十九年記念写真集



ごあいさつ

本年、一月十八日、私は九十九歳になりました。明治、大正、昭和、平成と激動の日々を振り返るとき、さすざまな思い出が脳裏に蘇って参ります。

先日、早大をはじめとした各大学の学生諸君と盃を交わした折、「先生の生い立ち、活動の記録が伝わるような、写真はありますか」と言われ、これがきっかけになり、写真集を発刊することになりました。

ご案内のように、これまで何冊かの著作を出版して参りましたが、写真集は初めての経験故、戸惑う事が多々ありました。本来なら各写真に筆を加え、もっと重みのあるものにしたかったのですが、資料も散逸し、なかなか思うようには出来ませんでした。この点をご容赦いただき、私の各著作と共に高覧いただければ誠に幸甚であります。最晩年のこのとき、お世話になった、各界の皆様にかかる感謝を込めて、本書を送出申し上げます。

元衆議院議員

和田耕作

生い立ち

私は、明治四十年（一九〇七年）一月十八日、四国は高知県吉良川村にて八人兄弟の末っ子として生まれました。幼くして母を失い、父が後妻をもらったので、実質的に長兄の妻に育てられました。幼年時代は、ふるさと室戸の海、川、山などの自然に戯れ、青春を謳歌しました。中学四年の時には、生徒を馬鹿にした科学の教諭と生徒に暴行した体操の教諭への抗議行動を指揮、後輩の学年も巻き込んで、大規模な登校拒否（ストライキ）を決定しました。



▲父 和田○○



▲桂浜にて、高知高校時代、旧友の○○君と（右が私）

やがて、大正二年高知高等学校へ入学しました。このとき、同級生に後に満州において、物心両面から私の生活を支え、死線を彷徨ったとき、文字通り命の恩人となった、瀧本実春がおりました。彼は後に妻澄の妹と結婚、親族にもなりました。



▲瀧本実春と妻澄の妹、澄



▲父の誕生日に集まった家族（左から長兄、一人おいて父、後妻、次兄、私）

京大行動左翼の一員として

(先ず飛び込め、然るのち考えよ)

昭和二年(一九二七年)京都大学経済学部に入
学した私は、やや暫くして、戦闘的なマルクス主
義を信奉する学生サークル「社会科学研究会(社)」
に入会しました。学生時代の私はレーニンの「国
家と革命」「帝国主義論」「晋教者カウツキー」「共
産主義左翼の小児病」といった極左的なテキスト
などを夢中で読み耽っていました。昭和四年、河
上肇教授の追放事件および共産党とその周辺に対
する一斉捜索を受け、はじめて検挙されました。
その後、宇都宮徳馬、水田三喜男氏などと一緒
に京大社研の再建に向け奔走。その過程で無期停学
処分を二度にわたって受けました。また、総選挙
における労農と公認大山郁夫候補の応援、第二
次山東出兵反対行動などで相次いで検挙されました。
さらに毎日新聞の配達人のストライキを指導する
など、左翼闘争に明け暮れていました。



▲ 社研の同志と共に



▶ 長兄一家と

結婚

(片思いの末、
相思の仲に)

昭和七年(一九三二年)一月、高校時代から深
く愛していた親戚の娘、池田澄と結婚しました。
同じ頃、京都市役所社会課に就職、市役所の仲間
の一人に後に淀川製鋼所の社長となった、浜田正
信君など多くの仲間がいました。



いざ満洲へ

(心の支え、家族と共に)

昭和九年(一九三四年) 京都をあとにした私は、京都大学在学中に学部長であった本庄栄治郎教授のご紹介により、満鉄経済調査会(のちに産業部) 資源調査班に配属されました。その後、京都で授かった長男晃司と妻澄を満洲へ呼び寄せ、やがて長女治子が誕生しました。この一年余の大連での生活が一家四人にとって貴重な一家団聚のひとときでありました。



企画院と 東亜研究所

(新日本建設に情熱を懸けて)



▲ 家族の見送りを受けて、鎌倉より東京へ向かう



▲ 東亜研究所の運動会

昭和十二年(一九三七年) 新設の内閣企画庁に副調査官として任官されました。その後、企画庁から改名して、企画院となり私も調査官に昇格いたしました。またこの頃、著名な学者、官僚、ジャーナリストら約二百人が結集した近衛文麿公と後藤隆之助氏が創設した、昭和研究会に入会、のちにソ連スパイ事件として有名なゾルゲ事件で主謀した。尾崎秀実らと交友を深めました。翌十三年には新設された財団法人東亜研究所の支那経済班主事に就任いたしました。その間、長男晃司を病のため失い、自宅も中野から荻窪を経て、鎌倉へ移住しました。

まぼろしの 企画院事件

(ふたたび留置生活へ)

昭和十五年(一九四〇年)万民翼賛の国民組織を目指した、大政翼賛会組織局庶務班長に就任した。このとき、同期に三輪好社、勝間田清一氏等がいました。昭和十六年四月鎌倉の自宅において、左翼思想を温存し国家転覆容疑で検挙されました。同時に勝間田氏や和田博雄氏など多数の同胞が逮捕されました。結果、昭和十七年一月、獄中応召して松江連隊に入隊するまでの十カ月間を東京中野区の野方警察署で拘禁生活を送ることになりました。



▲大政翼賛会に参画



▲企画院事件で検挙される2日前鎌倉の自宅にて



▶松江連隊へ入隊する直前、貝塚りに来た時と

バターン半島 中央突破の三勇士 (悲惨な戦場、死を覚悟して)

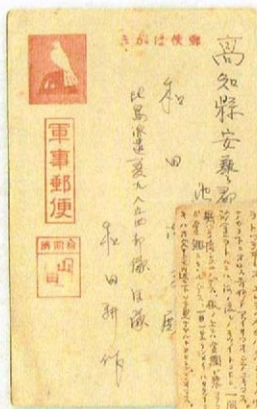
昭和十七年(一九四二年)三月輸送第一中隊第一小隊長として、輸送船に乗り、フィリピンルソン島に上陸、歩兵伍長として十二名の部下を率いて自動車に分乗して、一路バターン半島を目指しました。その後、数次に渡り、中隊の最前線に位置する尖兵長として砲弾が飛び交い、多くの戦死者が出る中、前進に強く前進懸命に戦いました。その後、私達、田邊大隊は兵団本部と離れて、バナツアンに陣取り、平地の警備にあたることになりました。

昭和十七年七月には軍曹に昇進、田邊大隊の命令受領者として部下二名を率い、奈良兵団本部のあるバギオに派遣されました。この模様は毎日新聞四国高知版に「バターン半島中央突破の三勇士」として紹介されました。



▲軍曹時代(現存するただ一枚の写真)

戦地より娘に宛てた手紙



奇跡の生還

(祖国日本へ感動の再会)

昭和十八年(一九四三年)四月、共産主義運動の被疑者としてマニラの軍司令部へ出頭、のちに満洲奉天監獄に収監されました。獄内で発疹チフスに伝染し、死線を彷徨い、病後の静養ということで保釈出所が許可されました。その後、新京へ移住し、日清木工株式会社に勤務していましたが、満鉄事件の判決により、執行猶予付き禁固三年となりました。やがて、日本が降伏し戦後の混乱の中、突如、越境してきたソ連軍により、シベリアに約四年間に渡り抑留され、重労働に従事させられました。

その間、のちに日本共産党の議長になる野坂参三氏と面談しました。

昭和二十四年(一九四九年)十月、幾多の困難な状況を経て、舞鶴港に帰郷、祖国の土を踏み、親族と涙の再会を果たしました。



▲シベリア抑留時代、アルマータ収容所で生活した同胞と共に

第二の人生

政治家としての幕開け

経歴

明治四〇年 一月十八日 高知県吉良川村で八人兄弟の末っ子として生まれる。

大正二年 小学校に入学。

大正九年 高知県立第三中学校に入学。

大正十三年 高知高等学校に入学。

昭和二年 京都大学経済学部に入会。

昭和三年 学生サークル「社会科学研究会（社研）」に入会。

昭和五年 河上教授退放反対闘争を指導。京都大学卒業。

昭和六年 電車転覆犯隠匿容疑で逮捕。松山歩兵第二十二連隊に入隊、幹部候補生。池田 澄と結婚。

昭和七年 京都市役所社会課に就職。

昭和九年 京都市役所を辞職し、満鉄経済調査会に入社。

昭和十年 企画庁副調査官に任命される。

昭和十二年 召集令状、身体検査で「即日帰郷」。

企画院調査官に昇格。昭和研究会に入会。東亜研究所第三支那経済班班長に就任。大政翼賛会組織局庶務班長に就任。

昭和十三年 「企画院事件」で検挙される。

昭和十五年 獄中応召で松江連隊に入隊、伍長。バタワン作戦に参加。軍曹に昇進し兵団本部勤務。

昭和十六年 「満鉄事件」で検挙される。

昭和十七年 未決囚として奉天監獄に収監される。発疹チフスで奉天の伝染病院に隔離入院。退院、保釈出所。

昭和十九年 新京へ移住し、日清木工株式会社に勤務。満鉄事件判決、執行猶予付き禁固三年。日本降伏、新京でソ連軍と接触して難民救済中、スパイ容疑で検挙されてシベリアへ。アルマトイ収容所（ソ連）に抑留され、重労働に従事。カラカンドラ収容所へ移送される。

昭和三年 この間、共産国の実情を体験。舞鶴港に帰還。

昭和四年 帰国後、民主社会主義の研究と教育に没頭。

昭和五年 日本フェビアン研究所事務局長となる。

昭和三七年 民主社会主義研究会を創設し、事務局長を務める。民主党の結成に参画。民主党を代表して社会主義インテリ・ローマ大会に出席。禁禁会議長と使節団長としてアジア十ヶ国を歴訪。参議院選挙東京地区に立候補。

昭和四二年 第二回衆議院議員総選挙にて東京四区（杉並・中野・渋谷）に立候補。八一〇九六票を得て、最高点で初当選。社会労働委員会、物価特別委員会を中心に活躍。健保特別法、消費者保護基本法等を推進し成立させる。民主党東京都連委員長に就任。

昭和四三年 参議院選挙東京地区で二議席（四三年・松下正寿、四六年・木島則夫）を確保。各級議会選挙において党勢を拡大。

昭和四四年 第三回衆議院議員総選挙で、六一、四三七票（四位）を得て再選。

昭和四七年 第三回衆議院議員総選挙で、六一、九九二票（四位）を得て再選。

昭和四九年 第四回衆議院議員総選挙で、八二、二五三票（三位）を得て再選。ペーチェット病をテーマにした「太陽は泣かない」特別試写会に皇太子ご夫妻（現 今上天皇）をお招きして特別試写会開催。

昭和五二年 勲二等、瑞宝章を受賞。

昭和五四年 第三回衆議院議員総選挙で、六二、九六〇票（四位）を得て再選。沖縄及び北方問題に関する特別委員長に就任。

昭和五五年 第三回衆議院議員総選挙で、七八、九七六票（三位）を得て、連続六回の再選。室戸市より名誉市民証を受賞。胸像除幕祝賀会開催。

昭和五九年 勲二等、旭日重光章を受賞。ソ連強制抑留者の補償に立ち上がる。

内閣委員会、物価特別委員会の理事を務める。衆議院議員内閣委員会理事、物価特別委員会理事、民主党政策審議会副会長、民主党東京都連合会委員長、民主党東京四区連委員長

著書、「私の昭和史」「社会改革への提言」「社会主義教科書」「民主社会主義とは何か」その他論文多数。

銃からペンへ

（社会主義研究に魅せられて）

帰国した私は、東京練馬区で養鶏を営み生計を立てておりました。そんな折知人の紹介で、倉敷レイヨンの大原総一郎社長をスポンサーとする政治色を排した社会主義研究を主眼とする日本フェビアン研究所に勤務することになり、後に事務局長になりました。理事に都留重人（二橋大学学長）氏ら多くの知識人が参加していました。

また、F.W.ペイトン著「社会主義とイギリス農業」を翻訳したり、「想像にあまるソ連の実相」かつてのマルキストソ連批判」を「経営者」に論文として寄稿したのをはじめ、各種論文を多数の雑誌に掲載するなど、執筆活動に没頭いたしました。

その後、東海大学創立者であり、後に社会党から衆議院議員となった松前重義氏後援のもと組織された社会主義政策研究会に幹事として加わりました。このときの主要なメンバーとして、成田知己（社会党委員長）、曾根益（民社党書記長）稲葉秀三（産経新聞社長）、笠信太郎（朝日新聞論説主幹、同取

締役、有沢広巳（法政大学総長）、氏らがおられました。結成直後に社会党が分裂し、活動は休止状態に追い込まれていきました。

続いて、蟻山正道（お茶の水女子大学学長）氏を会長に結成された、民主社会主義研究会（民社研）の初代事務局長となりました。

猪木正道（防衛大学校長）氏が参加されていきました。戦後の失意の中でこれら研究活動は、私にとって大切な癒しとなり同時に培った人脈は後の政治活動において大変有意義なものとなりました。



▲00氏と00温泉にて



▶民社研の会合にて、隣は遠藤敏之助君（民社中小企業政治連合事務局長）

いざ出馬 (我かく戦えり)

昭和四十年六月参議院東京地方区に民主社会党の公認候補として出馬いたしました。この選挙において、立正佼成会の全面的なご支援を得て戦いました。結果は、残念ながらわずかに及ばず惜敗いたしました。



数寄屋橋公園での参議院選告示第一声
左より中野源一郎、本人、片山武夫、基政七の各候補



民社党
衆議院議員
高知県出身・京大卒
東京都連委員長
福祉対策委員長

安心できる革新の政治

社会正義をめざして一勇気ある直言・責任ある行動・絶え間なき献身

和田耕作

わだ こう さく

この人、初田耕作
山高けれど
不屈の魂もて
唯いとすじに
登りゆく人
和田耕作
山を望みて
広言を吐くは易しく
征服するは難し
和田耕作
この人こそは
くじにたみの幸福を背負ひて
困難の山を越ゆる人なり
和田 一夫

●頒布責任者／東京都世田谷区野沢3-28-14 木島剛夫 ●印刷者／東京都中野区中野3-19-2 株式会社美術印刷店

▲選挙用法定チラシ



民社党 **和田耕作**
推薦八ガキ

▲推薦八ガキ



和田耕作国政報告会

選挙用各種リーフレット



あなたの一票は、活かされている。

選挙用各種リーフレット

厳しい選挙を打ち勝つため、乏しい予算の中で昔の英知を結集して6次に渡る国政選挙を勝ち抜きました。

選挙ツールの数々

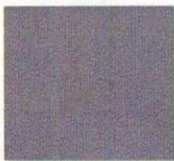


中野事務所



▲事務所前に停車した通称「耕作号」

私の事務所は中野、杉並にそれぞれ構えておりました。選挙ともなると事務所前は支援者でごったがえし、まさに活動の要でありました。



事務所

(想いを一つに仲間を集めて)



▲杉並事務所



▲感謝、家内とともに関係者に心からのお礼を込めて

昭和四十二年衆議院選挙において東京4区(中野、杉並、渋谷区)から民主社会党公認候補として出馬いたしました。結果は八一、〇〇票で他の現職候補を抑えトップ当選いたしました。



桜咲く

(感激の最高位当選)



感動のダルマ目入れ▶



▲万歳三唱、喜びに沸く選挙事務所

いよいよ国会へ (政治家として華開く)

初当選した私は、特に活動した委員会とは、社会労働委員会、内閣委員会、大蔵委員会、文教委員会、物価問題等に関する特別委員会、沖縄及び北方問題に関する特別委員会です。

それ以外に、「昭和四十二年」農林水産委員会、商工委員会、災害特別委員会、産業公害特別委員会（昭和四十三年）建設委員会、通信委員会、法務委員会（昭和四十四年）地方行政委員会、交通安全対策特別委員会（昭和四十五年）運輸委員会、外務委員会（昭和四十七年）公害対策並びに環境保全委員会（昭和四十八年）科学技術振興対策委員会（昭和五十年）公職選挙法改正に関する特別委員会（昭和五十四年）航空機輸入に関する特別委員会（昭和五十五年）安全保障特別委員会、科学技術委員会（昭和五十六年）環境委員会、行政改革に関する特別委員会（昭和五十八年）外交、総合安全保障に関する特別委員会にそれぞれ所属しました。



▲ 国会改革の必要性につき田村元氏と渡り合う



▲ 衆議院本会議で、代表質問



▲ ○○委員会委員長として、答弁席は山下元利官房長官



▲ スト権ストに対し、高木国鉄総裁に質問



◀ 前連の違法ストに絡み郵便局を視察。未記の郵便物を確認



▲ 初発院、議員バッジを胸にして



▶ 後藤田正剛官房長官に東北地区山火事視察の報告を行うと共に、航空消防の必要性を説く



▲国防教育は当然。
日教組を糾弾（昭和55年12月22日世界日報より）

第三部 教育

和野耕作氏 日教組教育が原因
教科書検定に新機関を

和野耕作氏 日教組教育が原因
教科書検定に新機関を

和野耕作氏 日教組教育が原因
教科書検定に新機関を

民社党 衆議院議員
和田耕作 政治レポート NO.13

「日本列島改造論」の正体をつく

和野耕作氏の超経済成長論

和野耕作氏は、日本列島改造論の正体をつきとせ、その本質を明らかにした。その結果、日本列島改造論は、単なる経済成長論ではなく、国家の存続をかけた政治的行動であることが明らかになった。和野耕作氏は、この行動を通じて、国家の未来を切り開いた。

▲「日本列島改造論」の正体をつく

田中前総理と政治倫理

和田耕作

話題を呼んだ「田中前総理と政治倫理」
全国会議員に配布した



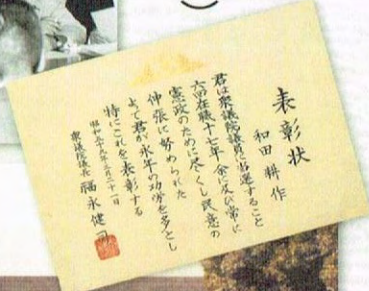
▲「返せ！北方領土！」北方領土返還要求大会で演説、
理不尽なるソ連を糾弾

私は常々「国会は数があるものやうに」ころだが、
一人の政治家の腹を決めた行動はそれらしい秀
開気をかもしだす。私はそのような政治家にな
りたい。」と主張し、様々な困難な状況に直面し
ても、一旦正しいと信じた道は決して翻すこと
なく堂々とわが道を貫きました。



▶民社党抑留者問題特別委員会にて

政治活動
（百万人といえども我行かん）



▲中国残留孤児の方々と記念撮影

選挙データ

昭和四十二年
第31回
東京第4区

定数	候補者氏名	得票数	男女別	年齢	党派	新選別	職業	法定得票数	投票率
5	○和田耕作	81,096	男	60	民社	新	民主党議員	26,479.0	21.183.2
	○岡崎家多	75,145	男	66	自	前	政治家	21,183.2	2,976.300
	○小峯柳多	74,599	男	58	自	前	会社役員		
	○帆足計明	67,907	男	40	共	新	弁護士		
	○松本善明	66,945	男	61	共	前	社会党議員		
	○大久保直彦	64,659	男	49	公	新	税理士		
	○大重盛治	52,872	男	65	社	無	団体役員		
	○三石井道正	44,032	男	43	無	新	無職		
	○新井正雄	873	男	70	自	前	団体役員		
	○新井虎	451	男	64	自	前	福門宅建協会理事		

昭和四十四年
第32回
東京第4区

5	○松本善明	79,799	男	43	共	前	弁護士	22,663.5	
	○大久保直彦	69,723	男	33	公	新	公明党青少年局長	18,130.8	3,587.600
	○小峯柳多	68,864	男	61	自	前	会社役員		
	○和田耕作	65,437	男	62	民	新	民社党政策委員会委員長		
	○岡崎英城	64,287	男	68	自	新	会社役員		
	○金子光	46,467	女	55	社	新	前東大助教授		
	○帆足計明	39,124	男	64	社	前	人権協会理事		
○三上英子	17,511	女	46	無	新	なし(主婦)			

昭和四十七年
第33回
東京第4区

5	○松本善明	107,903	男	46	共	前	弁護士	25,093.1	
	○金子みつ	92,774	女	58	社	新	公明党青少年局長	20,074.4	3,598.100
	○大久保直彦	67,482	男	36	公	前	会社役員		
	○和田耕作	51,992	男	65	民	新	党中央執行委員		
	○かすや茂	51,596	男	46	自	新	団体役員		
	○帆足計明	50,416	男	71	無	前	無職		
	○小峯柳多	47,627	男	64	無	前	会社役員		

昭和五十一年
第34回
東京第4区

5	○かすや茂	92,222	男	50	自	前	団体役員	25,383.8	20,307.0
	○金子みつ	83,079	女	62	社	無	衆議院議員	10,347.900	
	○和田耕作	82,253	男	69	民	新	党役員		
	○松本善明	80,331	男	50	共	新	弁護士		
	○大久保直彦	70,861	男	40	公	新	政党役員		
	○細木ひさよし	55,196	男	37	無	新	日本児童教育センター理事		
	○三上英子	43,733	女	53	自	新	学校法人鎌台学園理事		

昭和五十四年
第35回
東京第4区

5	○かすや茂	84,076	男	53	自	前	団体役員	19,198.1	15,358.4
	○松本善明	73,332	男	53	共	新	弁護士	14,238.600	
	○大久保直彦	64,438	男	43	公	新	政党役員		
	○和田耕作	62,960	男	72	民	新	団体役員		
	○金子みつ	58,586	女	65	社	新	無職		
	○安東仁兵衛	20,548	男	52	社	新	雑誌編集長		
	○川上源太郎	14,404	男	40	無	新	評論家		
○細木ひさよし	5,415	男	40	無	新	無職			

昭和五十七年
第36回
東京第4区

5	○かすや茂		男		自	前	団体役員		
	○松本善明		男		共	新	弁護士		
	○大久保直彦		男		公	新	政党役員		
	○和田耕作		男		民	新	団体役員		
	○金子みつ		女		社	新	無職		
	○安東仁兵衛		男		社	新	雑誌編集長		
	○川上源太郎		男		無	新	評論家		
	○細木ひさよし		男		無	新	無職		

政治活動

(百万人といえども我行かん)



▲誤った解散論議を糾す。総理の解散特権に物申す

▲「もつと愛国心を持とう」と文教委員会で演説



▲「看護婦さんに夢を」誰よりも早く、看護士制度を提唱 (昭和44年9月9日産経新聞より)



▲「有事立法は当然」防衛力増強を主張 (昭和56年5月16日東京新聞より)



海外視察

（世界を股に駆け巡る）

ヨーロッパ、中南米、アジアなど多くの国々を訪れ各国首脳と会談しました。



▲韓国 北朝鮮が南進用に秘かに掘った38度戦下のトンネルを視察する。左から山村新次郎、私、加藤六月、渡辺美智雄、中川一郎、中山OO 各氏



民社党抑留者問題特別委員会にて▶



▲韓国、金鍾泌首相と会談 左は渡辺美智雄氏



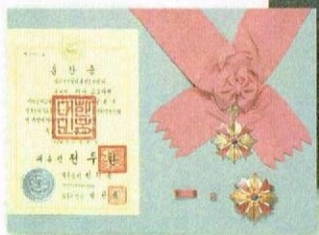
▲韓国、全斗煥大統領と



▲韓国、韓日議員連盟総会にて挨拶



▲韓国、町村金五代議員とともに韓国最高勲章を授与される。右は、加藤六月代議員



▲中国、万里の長城にて



▲中国、趙紫陽首相と

海外視察 (世界を股に駆け巡る)



▲ 南ベトナム、国賓待遇に困惑しつつ
熱烈な歓迎のなかサイゴン空港に降り立つ



▲ 南ベトナム、ベトナム政府要人と



▲ ポーランドにて



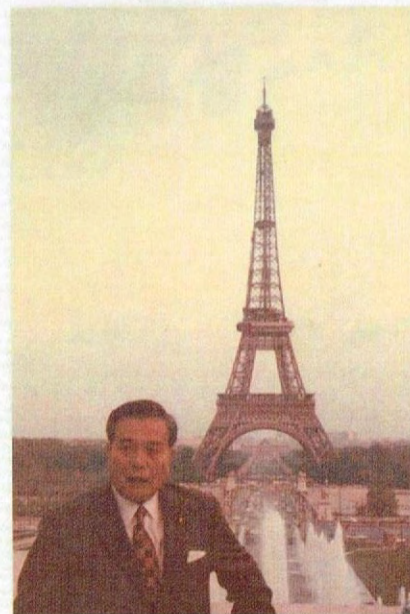
▲ コロンビア、岸元総理とともに大統領と面談する



▲ 土井たか子氏と共に国際会議に出席



▲ 00国際会議に代表として出席



▲ フランス、エッフェル塔を背に



▲ スイス、アルプスを後方に望む

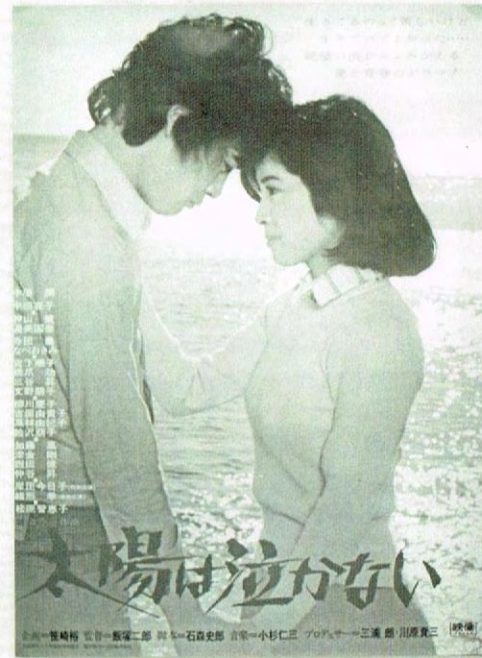


▲ 皇太子ご夫妻を先導して出演者をご紹介



▲ 明治記念館前に押しかけた人々

映画「太陽は泣かない」▶
試写会の案内状



▲ 映画「太陽は泣かない」のポスター

ベーチエツト病 (難病克服に情熱賭けて)

私は代議士時代、難病のベーチエツト病患者の方々の支援活動に特に力をいれました。お陰様で多くの国民の方々のご賛同をいただき支援の輪が広がりました。夏に日活株式会社のご協力をいただき完成した映画「太陽は泣かない」特別試写会においては実行委員長としてその進行を取り仕切りました。



▲ 主演女優ならびに出演者とともに舞台挨拶



◀ 同盟新聞も大きく掲載



▲ 大平正義首相と



▲ 鈴木善幸首相と



▲ 中曽根康弘首相と



▲ 宇野宗佑首相と



▲ 森喜朗首相と



▲ 福田赳夫首相と共にブランドドイツ首相と懇談



▲ 竹下登首相と



私は国会議員時代歴代総理と懇意にさせていただきました。時に渡り合い、あるいは励まし合い明日の日本を憂い、語り合ったものです。

総理とともに (国政中核をなす)



中野事務所



▲ 事務所前に停車した通称「耕作号」

私の事務所は中野、杉並にそれぞれ構えておりました。選挙ともなると事務所前は支援者でごったがえし、まさに活動の要でありました。



▲ 杉並事務所

事務所

(想いを一つに仲間を集めて)



▲ 感謝、家内とともに関係者に心からのお礼を込めて



感動のダルマ目入れ▶



▲ 万歳三唱、喜びに沸く選挙事務所

桜咲く

(感激の最高位当選)

昭和四十二年衆議院選挙において東京4区(中野、杉並、渋谷区)から民主社会党公認候補として出馬いたしました。結果は八一、〇〇〇票で他の現職候補を抑えトップ当選いたしました。



▲ 議員総会において挨拶



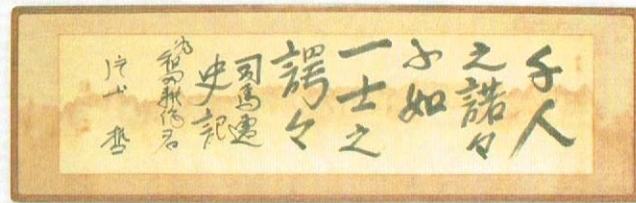
▲ 院内控え室にて、党最高幹部と打ち合わせ



民社党神奈川県連大会に党を代表して出席



▲ 東京都連委員長時代支えてくれた地方議員の仲間とともに



▲ 片山哲元内閣総理大臣より贈られた書



▲ 民社党初代委員長、西尾末廣氏より贈られた色紙

民社党

(政党政治に信念貫く)

民社党は安保の容認と反共、そして福祉国家の建設を目指して結成されました。私は当初、民社党の応援団として結党を見守り後に党に参加、その後、代議士会長として民社党の発展に微力ながら尽力いたしました。



▲ 国会議事堂前に勢ぞろいした党同志の面々



▲ 網走刑務所を尋ねて

私は学生時代より、左翼運動に加わった疑いで
教度にわたり、投獄の苦しみ味わいました。法
律は人が作ったもの。中には何年かたつて改めら
れるものもあります。しかし、人の道は心の道。
私は決して踏みはずさぬよう常に自分を戒め、天
下国家に情熱を傾けてまいりました。

我、義賊たらん
(悪事はすれども非道はせず)



▲ 神道政治連盟大会にて挨拶



◀ 国会において正論振りかざす



▲ 国際興業社主、小佐野賢治氏と

民社党

(政党政治に信念貫く)



▲ 党研究会において隣は関嘉彦、三浦隆各衆議院議員



▲ 応援弁士として駆けつけた
塚本三郎民社党委員長



▲ 民社党大会において演説



▲ 講演会に弁士として駆けつけた
春日一幸民社党委員長



▶ 佐々木良作委員長より激励を受ける ▶



会長先生 和田耕作氏
(東京地方区)

▲庭野日敬会長と



▲自宅で妻と読経する

選挙前のある日、私は西尾末廣党首に連れられて立正佼成会本部を訪問、庭野日敬会長とお会いしました。爾来立正佼成会の会員の皆様の熱烈なご支援に支えられて政治活動を展開することができました。

立正佼成会

(議員当選の原動力)



▲七面山よりご来光を拝む



七面山山頂に残る記念の書 ▶



▲改革に燃える若人を前に熱弁を振るう

私は老、壮、青、各界、各層の方々に支えられて活動してまいりました。中でも青年たちとの触れあいは私に若い息吹と活力を与えてくれました。まさに力の源泉でした。

若人とともに

(羽ばたけ改革戦士)



▲和田耕作を励ます会において壇上で応援歌を歌う若人たち



学生に囲まれて ▶

絆

KIZUNA

多くの代議士と

私は国会議員在職中、政党政派の域を超えて数多くの国会議員をはじめ、政界関係者と親しくお付き合いさせて頂きました。



▲ 高橋一郎国務相と、私の隣は
滝田実同盟会長



▲ 粕谷茂国務相と



▲ 田中大輔中野区長と



▲ 扇千景参議院議員と



▲ 長谷川俊労相、鳩山威一郎外相と



▲ 鈴木俊一東京都知事と



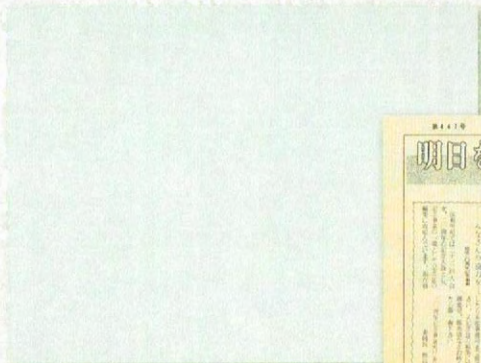
▲ 石原伸晃国土交通相と



▲ 安井謙参議院議長と



▲ 違法スト反対行動に立ち上がった鉄道労働組合員を国会前にて迎える



▲ 全金同盟最高幹部の面々と



▶ 国税労組機関紙に奉稿

仲間とともに

私の政治生活を支えてくれた仲間のおかげに、多くの民主的労働運動を支えてくれた同盟の方々がおられました。なかでも、天池清次氏とは公私にわたり、親しくお付き合いさせていただきました。また、総評に所属する極左的労働組合、全連、国労、動労、全林野などの官公労系労働組合と対峙した同盟系全郵政、鉄労、日林労、などの組合の皆様とは特に、敬意にさせていただきます。また、全金同盟、国税労組、をはじめ多くの組合員とご家族に支えていただきました。



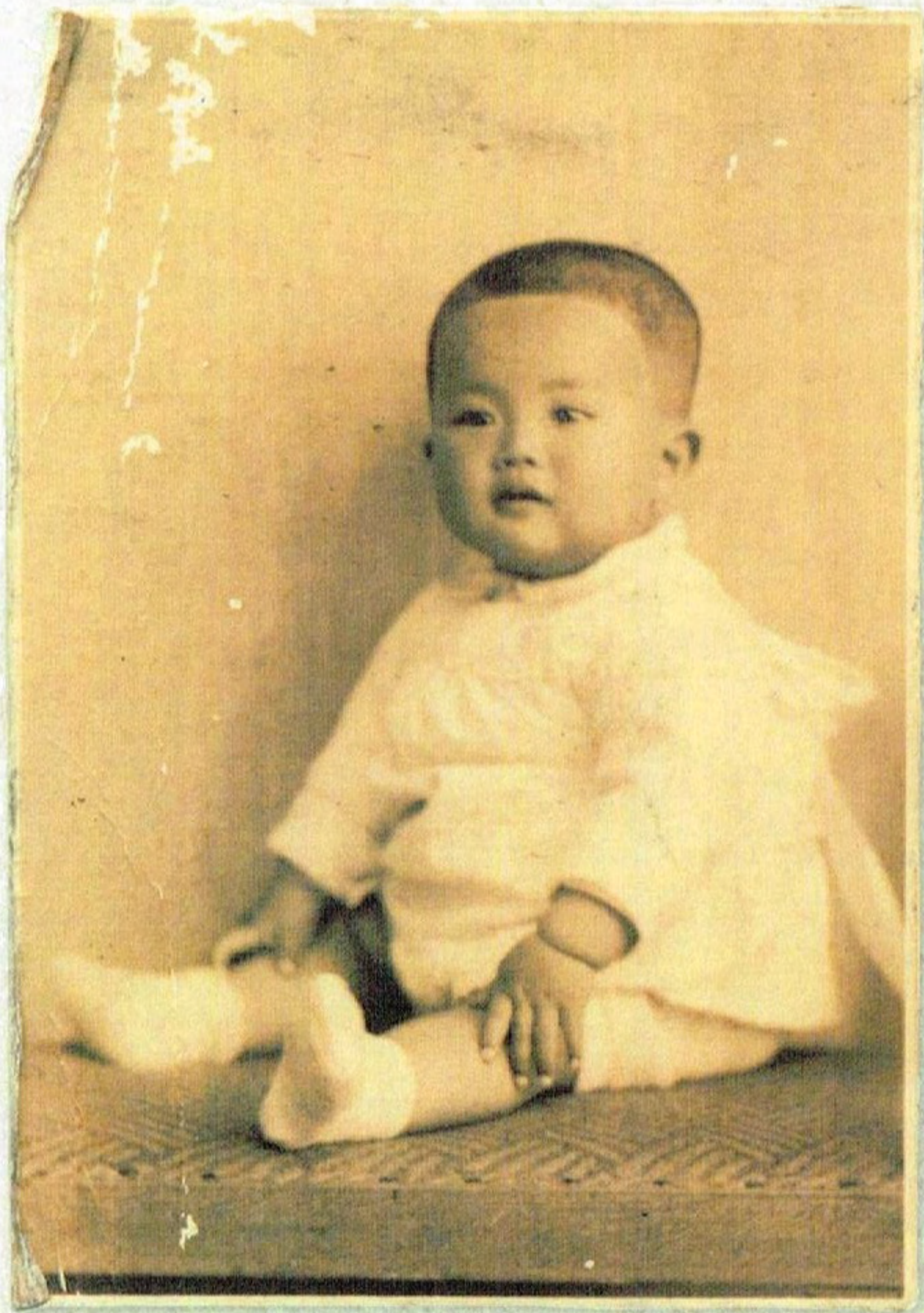
▲ 同志天池清次さん



▲ メーデーにて行進する。左は成田知己社会党委員長右は宮本顕治日本共産党中央委員会議長



▲ メーデーに参加する同盟組合員を党本部街宣車より激励



▲ 幼くして亡くした長男洸児

かけがえのない家族とともに

私の政治活動を根底から支えてくれたのは、妻澄と、娘治子でした。国会においては秘書として、家庭においては家族として、常に行動を共にし良きパートナーであり、良き理解者でした。



▲ 鉄の団結、熱い友情、高知高校同窓生の面々

同窓生に守られて

私の政治活動を強力に後押しして下さった後援会が高知高校そして京都大学の同窓生でした。先輩・同輩・後輩の垣根を越えて心をひとつに私の活動を支えていただきました。



▲ 白寿の祝いに駆けつけてくれた高知高校の後輩諸君



▲ 妻澄と



▲ 妻澄と



▲ 親族とともに



◀ 親族とともに



▲ 愛犬とともに練馬の自宅前にて

選挙応援 同志のために東奔西走

私が衆議院議員として、六期十七年に渡り活動できたのは、多くの地方議員の支えがあったからに他なりません。彼らは私の選挙を文字通り、物心両面から支えてくれました。私もそんな彼らのご好意に少しでも報いようと、あるときは宣伝車に同乗し、またあるときは、個人演説会に出掛け、一人でも多くの当選を勝ち取ろうとひた走りました。



▲参議院東京地区区より立候補した立教大学総長松下正寿氏の応援に左より、中村富雄民社党中野支部長、川上進中野区議会議員、私、松下正寿候補、鈴木一磨中野区議会議員、藤原哲太郎都議会議員、橋口昭中野区議会議員と



◀都議選応援、渋谷駅頭にて



▶都議選応援、渋谷駅頭にて



▲東京都知事選挙で民社党東京都連合会委員長として鈴木俊一候補再選の原動力となる

挑む

勝負の世界に男を賭けて

私は勝負の世界で生き続けてきました。囲碁あり、競馬あり、バチンコあり、特に囲碁は大好きで腕前は9段です。先日も大竹英雄名誉基聖と互角に渡り合い、白寿の奇跡と新聞紙上で騒がれました。相手の出方をじっと見る、ここぞと決めて、勝負に出る。たまらない緊張感の中で燃えている自分を発見します。80歳になった今でも、勝負の世界に身を置いて頭を鍛え、切磋琢磨しております。



02 13 '06

▲白寿の奇跡、大竹英雄名誉基聖と因縁の対決

碁白寿の奇跡



▲坂田栄男囲碁9段、日本棋院理事長と対戦する。



◀将棋の升田幸三名人と



週刊サンケイ 大竹英雄 碁仇手談

▲大竹英雄名人に挑む(中央は服部経治、元関西空港社長)服部さんとは20年来の基敵でした。

選挙応援 同志のために東奔西走



▲ 佐藤博副議会議員候補をすぶぬれの雨の中応援



▲ 藤本重美渋谷区議会議員候補を激励



▲ 川上進中野区議会議員候補を応援



▲ 宇田川道芳杉並区議会議員候補を自宅に訪ね激励



▲ 村上通明選挙事務所に張られた激ピラの前に、村上夫人と母親



▲ 鈴木満昭渋谷区議会議員候補当選を喜ぶ



▲ 柿沼秀光中野区議会議員候補選挙事務所にて当選を祝う



▲ 大田哲二区議会議員候補をJR荻窪駅にて応援演説



▲ 中山幹雄練馬区長候補を応援



▲ 平田昭広渋谷区議会議員候補を出陣式にて激励



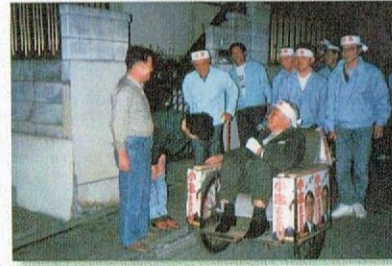
▲ 藤本泰民中野区議会議員候補と固い握手



▲ 木梨盛祥杉並区議会議員候補を出陣式にて激励



▲ 山根●●部議会議員候補(明治大学応援団OB)の出陣式にてエールを見守る。



▲ リヤカーに乗って小車当選に向かってひた走る



▲ 小車正徳中野区議会議員候補を激励



▲ 門脇文良杉並区議会議員候補選挙事務所を訪ねて運動員を激励

生きて生きて

九十九年

長寿の秘訣は仲間の絆なり

八十八歳の米寿を皮切りに毎年一月十八日になると親しい仲間が集まって、誕生会をやってくれます。また、米寿、卒寿、白寿と節目ごとにパーティを開催、私を励ましてくれます。政界を退いて、早二十三年、今でも多くの仲間を支えられ幸福な日々を送っております。



▲ 99歳白寿を祝う会



99歳の誕生日、早稲田大学・大学院生の面々と
左は元東京都知事鈴木俊一夫人 敦子氏



◀ 99歳の誕生日、
廣濟堂社長 長代厚生氏に招かれて



▲ 88歳米寿を祝う会



▲ 90歳卒寿を祝う会



◀ 96歳誕生会

愛犬と ともに

かけがえのない大切な“家族”

長男、妻、長女を相次いで亡くした私は九十歳にして、天涯孤独となりました。誰もいなくなつた、静かな自宅で私に懐き、励まし、労ってくれる唯一の身内、愛犬“モン”の存在は私にとって、かけがえのない“家族”そのものです。



▲ 愛犬と共に近所を散歩、いつもの“仲間”に笑顔で挨拶



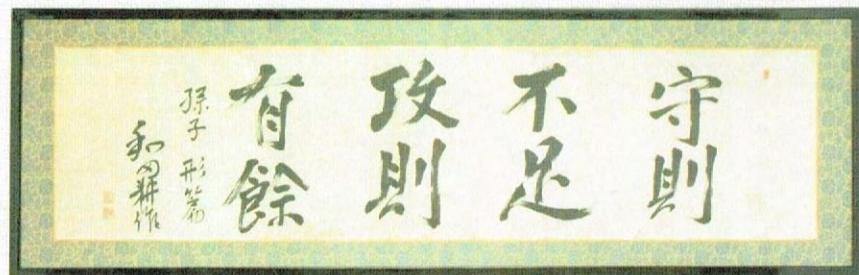
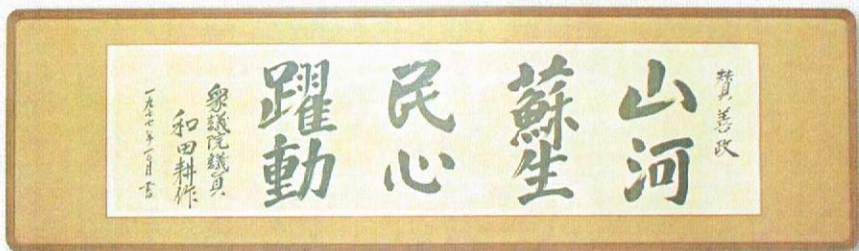
▲ どんな時にも犬といつも、国会にも内緒でよく連れて行きました。



書

思いのたけを筆にして

私はその時々感じたこと、あるいは思ったことを書に著し人生訓として参りました。



著書の数々

想いを筆に走らせて

私は国会議員の時政治信条として「安心できる革新の政治を」スローガンに国政選挙を戦いました。観念的なイデオロギー過剰から脱皮し独立国日本として世界の中の日本を確立する一方、民社党立憲の精神に想いをいたし直面する政界の再編に対しては、民社の主体性を堅持しながら、保守を超えて現実的な革新勢力させるべく結集の基盤作りを全力を注いで参りました。

その過程において、多数の論文を発表すると同時に、新聞、雑誌への寄稿をはじめ各著作を著し、政策への理解を得るため奮闘して参りました。晩年には、かつての大日本帝国時代を振り返りつつ歴史の中から改めて祖国日本を検証した「帝国日本へのはなむけ」をはじめ何冊かの著作を出版いたしました。私はこれらの著作を通じ私の主張をより多くの方々に理解していただく為多忙な勤務をぬって筆を走らせました。

叙勲と胸像

陛下より勲章をいただいで

私は平成〇〇年、勲三等〇〇賞を授与され、さらに、〇〇年には、同じく勲三等〇〇賞をいただきました。同時に地元高知では、室戸市名誉市民に推荐され立派な胸像までつくっていただきました。



▲ 胸像除幕式



▲ 郷土室戸にそびえたつ胸像



▲ 出版記念会で挨拶しているのは小倉基波谷区長



▲ 出版記念講演会に参集した人々

大戦争の表と裏



歴史の中の帝国日本

七〇年代の政権構想



ありのままの国会討論



激流に生きる



▲ 数々の勲章を背景に



▲ 勲2等旭日重光章



▲ 勲2等瑞宝章



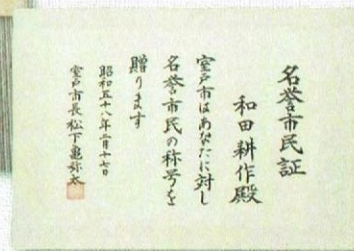
▲ 胸像除幕祝賀会



▲ 室戸を訪れた際、集まってくれた地元のの方々
中央 左は●●室戸市長



▲ 室戸市長室に飾られた写真





和田耕作 生誕九十九歳記念写真集

耕 進

